



# 「地域と共に、 絆を深め合う同窓」



八雲支会幹事長  
(落部小学校)  
岩崎 透

秀峰駒ヶ岳を望み、噴火湾を挟んで羊蹄山を始めニセコ連峰を眺める落部には、小学校と中学校が並んで建っています。

本年度創立一三一年を迎える落部小学校は、現在児童数一〇五名。年々増加し、二十五年度には一三〇名になる予定で、今まさに躍動している学校です。

地域の方々は、伝統を誇る本校への愛着と関心は高く、多方面に渡り協力的です。例えば「子どもスポーツ活動」です。体育館での各種スポーツや川遊び、水泳、スキーを毎月二回、地域の方々が、指導しています。

さらに、二大行事「落部子ども広場」と「スポーツ祭り」では、地域の方々が準備から子どもたちの相手、後始末まで行います。「田植え」や漁港での「稚魚放流」などの体験学習も地域の方々の協力により、行うことができました。

このような地域に温かく見守られた児童は、明るく素直に成長し、文化面、体育面での活躍も目立っています。

六年児童全一七名は、「落部盆踊り大会」と「高速道路開通イベント」のオープニングに、和太鼓「ぶちあわせ太鼓」を披露して喝采を受け、地域への感謝の気持ちを表しました。

四、六年生は、学芸会で地域企業から贈られた半纏をまとい、「よさこいソーラン」を笑顔で舞いました。

子どもたちの心身の健全な成長と発達のために、家庭や地域、中学校との連携に努め、開かれた学校・信頼される学校の推進に努める本校は、高橋伸夫、加藤幹稔、相馬匠、落幸公人、佐藤裕太、西村愛実、岩崎透の夕陽会員が落小の教育のため、それぞれの力を存分に発揮しています。

同窓の絆を深め、他の職員と協力し、瞳輝く落小の子どもたちに、全力で取り組んでいます。

## 職員室

# 「ひとりひとりを 大切に！」



松前支会幹事長  
(小島小学校)  
坂井 顕也

松前町は、古くから北海道の歴史・文化の発祥の地として栄え、二五〇種一万余本の桜がある全国屈指の桜の名所としても有名な町です。また、近年は戸井と肩を並べ注目されている松前マグロをはじめとした漁業の町でもあります。

松前町には、小学校六校（大島・小島・館浜・松城・松前・白神）、中学校二校（大島・松前）と松前高校があります。それに、町教委職員の二名の会員を加え、総勢四十二名の夕陽会員が「人間性豊かで心身ともにたくましい松前町の児童・生徒」の育成を目指し日々力を尽くしています。

今回は、これらの学校の中から小島小学校の職員室の様子につきましてご紹介いたします。

小島小学校は、昨年度、創立一三〇周年を迎え、本年二月十三日には、同窓生はじめ旧職員の皆様方のご協力によりまして盛大に記念式典・祝賀会を挙行することができました。そんな伝統ある小島小学校ですが、児童数は年々減少傾向にあり、現在は四十一名となりました。

小規模校の特徴を最大限に生かすために黒田仁志校長の強いリーダーシップの下、四十一名の子どもたち「ひとりひとりを大切に」した教育活動の展開する中で六名の夕陽会員が活躍しています。安全教育の充実と危機意識の高揚を推進する生徒指導部長の井村雄次教諭。教務主任として各部の連絡調整と教育課程の確実な推進に努める庄司みどり教諭。研究部長として、ひとりひとりの基礎・基本の定着と表現力の向上を推進する本田靖教諭。専門の体育を生かし、子どもたちの基礎体力の向上を推進する藤井夏江教諭。

これからも小島小学校は、全教職員一丸となり、子どもたちに「生きる力」をはぐくむために全力で取り組んでまいります。

支会だより

「歴史と伝統の絆」



知内支会  
(涌元小学校長)  
鈴木 木 洋 一

知内町は、東に津軽海峡、西に名山大千軒岳、南に矢越岬。そして中央には知内川。河川と森林、海に囲まれ、数々の秘境が点在しています。本町は明治四年(一八七二)に旧松前藩士田中明定氏が初代の戸長に就任し自治制が施行されて以来本年で一四〇周年を迎えます。また、教育の歴史は一八七六年(明治九年)に雷公神社宮司大野重敬が神社を開放して自らが教師となり生徒十四名に教育を行ったのが始まりで、その後一三〇年余りの間知内町の教育は先人から受け継がれ現在に至りました。さて、夕陽会知内支会の平成二十三年度総会、懇親会が七月六日に「川波」で行われました。本年度は、転入会員が九名居り、現職会員が二十九名(知内町役場 一名 知内小七名 湯ノ里小四名 知内中九名 涌元小八

名 知内高三名)、終身会員七名の計三六名となりました。

総会・懇親会には 夕陽会会長 橋田恭一様、夕陽会渡島支部 幹事長 佐藤幸男様のご出席をいただきました。橋田会長様からは、教育大学函館校の様子や三・一一震災後の夕陽会員の絆の強さについてのお話がありました。懇親会には、終身会員の能代久司様(S十九) 藤田健一様(S二十七) 田島 隆様(S二十八)のご出席をいただきました。三名の皆様から、知内町の郷土や教育の歴史、大震災に被災された同窓への思いが語られました。

本年度、知内町は田中健一教育長(S四十九)のもと、第六次知内町学校教育中期推進計画が策定され、教育実践がスタートしました。幼小中高の一貫教育のもとでの地域の人材育成と特別支援教育「結」の理念に基づいた福祉の町づくりが課題となっています。

支会だより

「地域に貢献する夕陽OB」



森支会  
(濁川小学校)  
橋 本 公 伸

秀峰「駒ヶ岳」の麓、恵み多い内浦の海に抱かれた、緑あふれる森町。渡島でも5号線の間地点ということ、南は函館・北斗・七飯方面から、北は八雲からも通勤可能な立地条件にあります。近年力を入れていく人事交流でもBCD郡がそろっており、A郡からの異動希望地としての人気も高まっています。この十一月二十六日には、道央自動車道 森ノ落部間も開通し、ますます近郊との距離が短縮され、町にも活気が溢れています。

そんな森支会の現状ですが、現職会員数は9校七十名。森小学校十五名、尾白内小学校七名、鷺ノ木小学校七名、駒ヶ岳小学校六名、石倉小学校二名、濁川小学校五名、さわら小学校八名、森中学校十六名、砂原中学校四名という構成になっています。OB会員は三十九名おられ、

毎年の総会には五〜六名の方が、顔を出してください。総勢百十名と、とても動きやすく手頃な人数構成となっています。

ただ最近の流れを反映してか九校中、管理職が夕陽で二名揃う学校は五校で、二人とも夕陽でない学校も三校あり、その分学校幹事の先生にがんばってもらっています。今後さらにこの傾向は強まると予想され、事務局校選びも大変になり、課題となってくると思われます。

今年度の支会総会・懇親会は、支部総会の延期に伴い、例年より遅く、夏休み明けの八月二十九日にグリーンパークで開催されました。ご来賓として、本部長・橋田恭一様、渡島支部長・市川秀雄様、森町教育委員会教育長・磯邊吉隆様がご臨席くださり、元気いっぱいOB会員を中心に準備したゲームの時間がないくらい盛り上がりでした。昭和二十三北二師卒の鈴木真一様を筆頭に、松浦須枝二様、松田明雄様、岩村吉男様、木野皇様と、皆さん森町の教育関係や社教関係団体の重鎮として現役ばりばりで活躍されているお話をたっぷりお聞きし、夕陽の精神を改めて学びました。

# 新会員だより

各ページの写真は平成23年「夕陽会渡島支部 新会員・大懇親会」の様子です。

## 「三つの旗を探して」



五稜支会  
(渡島教育局)  
鈴木 淳

淳

今年四月から渡島教育局で仕事をさせていただいています。諸会議等で夕陽の先生方とお会いし、夕陽の支えを実感しております。心から感謝です。今、教育の流れは、ものすごい量とスピードですが、この時、どうしても目の対応に追われ、流れ方や内容を見落としてしまいます。私自身も常に、物事の本質、拠り所を探しながら仕事に取り組んでいます。実は、昨年度まで勤務していた道研の当時の所長から「三つの旗に向かうこと」の話がありました。組織のトップが示した三つの旗を具現化することが所属職員の役割であり、今、教育に求められるマネジメント力であると実感したところです。私は、渡島の先生や子どもたちのために三つの旗を掲げたいと感じていますので、是非、皆さんも自分の三つの旗を探してみませんか。

## 「夕陽の点す 明かりに向かつて」



五稜支会  
(渡島教育局)  
細川 真喜

真喜

今年の四月に留萌教育局から渡島に戻らせていただいて七ヶ月が経ち、学校訪問等で同窓の皆様方から励ましのお言葉をかけていただいたり、また、懐かしい方々と再会することができ、ふるさとのおよさを実感するとともに、毎日感謝の気持ちで過しております。

留萌教育局にお世話になっていた二年間においても、道北の地に「夕陽魂」ありと示すような素晴らしい教育実践を目の当たりにする機会に恵まれ、夕陽会の点す教育の明かりが全道広く照らされていることを実感しました。留萌支部においても、年に4回、研修会や懇親会をもち、絆を一層、深めました。今後、皆様方の御支援に心から感謝しながら、日々精進していきたいと思っております。

## 「初心を忘れずに」



松前支会  
(松前小学校)  
川岸 茉貴

茉貴

今年の春、函館校を卒業し、事務職員として松前小学校に赴任しました。

教育現場で働けることにとにかく喜びを感じていた四月。初めは本当に何もわからない中でスタートで、不安だらけの毎日でしたが、周りの方々の協力のおかげで何とかここまでくることができました。



函館校は私の一つ上の代より教員養成課程ではなくなったこともあり、進路選択には色々悩んだ時期もありましたが、働いて数か月しか経っていない中でも、この職に就くことができたこと、この環境で働けることに本当に喜びを感じています。

これから、たくさんの出会いを大切にし、目標を持って、少しでも教育現場に貢献できるように努力していきたいと思えますので、どうぞよろしくお願い致します。



福島支会  
(福島中学校)  
鈴木 達 雄

「決意を胸に」

今年の春に函館校を卒業し、福島町立福島中学校に赴任しました。

教員として働き始め、多くの先生方、先輩方にアドバイスやご指導をいただき、これまでの半年間を過ごすことができました。あつという間に過ぎていく時間の中で全てのことにおいて勉強の日々を送っています。実

際に子どもたちを前にして授業や部活動、生徒指導を行うことで教職の難しさを実感しています。ですが多くの先生方に励まされていたが、気持ちに余裕が生まれませんでした。また日々接している子供たちの成長は私に勇気や元気を与えてくれます。多くの方への感謝の気持ちを忘れず前進していこうと思います。

まだまだ未熟ではありますが子どもたちの心身の成長のために、全てのことに全力投球していきたいと思えます。



知内支会  
(知内高等学校)  
板 垣 希

「一歩一歩」

私は、今年の春に函館校を卒業し、北海道知内高等学校に講師として赴任しました。教壇に立つようになり早くも半年以上が過ぎました。全てのことが初めてのこと、壁にぶつかり、授業をすることの難しさを日々感じていきます。悩むことや落ち込んでしまうことも多々ありますが、先輩の先生方からアドバ

イスや温かい励ましを受け、充実した毎日を送っています。また、一生懸命授業を聞いてくれる生徒とのやり取りや関わりを大切にし、より充実した学校生活を送れるよう頑張っていきたいと思えます。日々の生活の中で多くの人に支えてもらい、今の自分があるというを感じる毎日です。

これからの先輩の先生方や生徒との関わりの中から多くのことを学び、精一杯努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

初めて教壇に立つてから早くも半年が過ぎ、振り返って一番に思うことは「今ある環境がとてすばらしい」ということです。この半年、授業がなかなか計画通りにいかず悩むことが多々ありました。そんなとき周りの先生方は、自分の業務があるのにもかかわらず手を差し伸べてくださり、少しずつ授業を改善することができました。それに満足することなく、より一層努力し生徒にとって頼りがいのある先生であり続けたいと思えます。

これからの授業のことで悩むこともあると思えますが諸先生方の実践から多くを学び、今ある環境に感謝し自分が生徒のため、できる精一杯をぶつけたいと思えます。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

「諸先生に支えられて」



北斗支会  
(大野中学校)  
山 口 崇 志

今年の春に函館校を卒業し、北斗市立大野中学校に赴任しました。

初めて教壇に立つてから早くも半年が過ぎ、振り返って一番に思うことは「今ある環境がとてすばらしい」ということです。この半年、授業がなかなか計画通りにいかず悩むことが多々ありました。そんなとき周りの先生方は、自分の業務があるのにもかかわらず手を差し伸べてくださり、少しずつ授業を改善することができました。それに満足することなく、より一層努力し生徒にとって頼りがいのある先生であり続けたいと思えます。



「初心」



北斗支会  
(上磯小学校)  
寺崎 史歩

この春から、念願の正規採用として上磯小学校に勤務し、半年が過ぎました。上磯小学校には、三年前にも補助教員として勤務したことがあり、慣れた地で勤務できることを嬉しく思っています。

春から今日まで、忙しさに追われる毎日でしたが、子どもたちの一瞬の瞳の輝きや心の真つ直ぐさに、教員になれた喜びを感じています。

子どもたちの抱える困り感と向き合い、保護者と共に考える毎日で悩みはつきませんが、諸先輩方に支えられ、なんとか今日まで頑張ることができました。

これから長い教員生活が待っていますが、子どもたちの将来が少しでも良いものになるために私ができることは何かを考えて、学び続けていこうと考えていますので、今後とも指導よろしくお願いたします。

「子どもとともに」



七飯支会  
(七重小学校)  
前田 真

今年から、夕陽会の新会員となりました。昨年の四月に北海道教育大学函館校の大学院を修了し、北斗市立大野小学校で一年間過ごした後、縁あって七飯町立七重小学校に赴任することとなりました。現在は、三年生の担任として、多忙ながらも充実した日々を過ごしています。

今年度より自身初の学級担任を任せられ、期待と不安が入り混じる中、今のクラスの子どもたちと出会いました。その日より今日まで、子どもとともに成長できる教員をめざし、教育活動に尽力してきました。あつという間に半年以上が経ちました

が、まだまだ自分の未熟さに気がかされる毎日です。周りの先生方にも多くのことを学ばせていただけるこの環境で、自分さらに高めていけるよう、これからも頑張りたいと思います。



「再出発」



森支会  
(森中学校)  
東 剛

私は、この春に森中学校に赴任いたしました。教員採用試験に合格後、苫小牧市立明野中学校で四年間過ごしてきました。

苫小牧では、本当に多くの方々に支えられ、ご指導をいただいていたと実感する毎日です。

その中で、いつか苫小牧の諸先輩方にご指導いただいたことを生まれ育った渡島で実践した

い、恩返しをしたいという気持ちが高まってきました。そして、念願かない、森中学校に赴任できたことを嬉しく思っています。

これからは、生まれ育った渡島で、今の自分は子どもたちに、何ができるのかを考え、行動していきたいと思っております。まだまだ、未熟な自分ですが、諸先輩方の姿から多くのことを学びたいと考えておりますので、どうぞ、よろしくお願致します。

「今思うこと」



八雲支会  
(落部小学校)  
佐藤 裕太

八雲町立落部小学校に新採用として赴任してから早くも半年以上が過ぎました。四月まで同じ八雲町内で期限付教員をしていたこともあり、慣れた土地で勤務できていることを大変嬉しく感じております。

念願だった教員となつて過ぐす落部小学校での新たな日々は、頑張る子ども達の姿に支えられる中で、教職の難しさを痛

感させられていますが、学ぶことの多い充実した日々です。

子ども達の良き成長のために自分はどうすべきか。今は只々少しでも良い授業を、良い指導をしたいという思いです。そのため、子どもの気持ちに寄り添い、経験豊富な先輩方から沢山のことを学ばせて頂きながら教員活動に励んでいきたいと思いません。

これからもご指導よろしくお願いいたします。

### 「新たな地で」



八雲支会  
(関内小学校)  
藤 谷 毅

檜山管内せたな町立小倉山小学校から、この度、縁があつてこちら八雲町立関内小学校へ赴任しました。

二十年間の教員生活を檜山の地で過ごしてきたため、「渡島の教育」についての知識が皆無であり、不安もありました。しかし、校長先生を始め先生方、PTAや地域のみなさんに支えられ、充実した教育活動を送ることが出来ています。

また、赴任に当たり夕陽会八雲支会による歓迎会で多くの諸先輩に励ましの言葉をかけて頂き、その言葉一言一言が心の支えとなりました。

また、十年に一度の札幌での夕陽会総会に参加させて頂き、夕陽の結びつきの強さや志の高さを知ることが出来ました。不勉強な面もありますが、渡島の子どものため、粉骨砕身頑張っていきたいと思えます。

### 「渡島の児童のために」



長万部支会  
(長万部小学校)  
高 山 大地

今年度より長万部町立長万部小学校に赴任してきました。

前任校が中学校だったこともあり、戸惑いながらのスタートでしたが、まわりの先生方、児童達に支えられ楽しく充実した毎日を送ることができています。

まだまだ未熟な点が多く、壁にぶち当たることもあると思いますが、支えてくれる方々のご厚意に報いることができる

ように努力していきたいです。そして、今後は自分が少しでも支える立場になっていければと思います。

自分が生まれ育ちお世話になったこの渡島の地や、お世話になった多くの方々へ感謝の気持ちとして、今度は私が渡島の児童のために日々精進していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

### 「出会いを大切に」



長万部支会  
(長万部小学校)  
宮 澤 みゆき

私は今年の四月、長万部町立長万部小学校に赴任致しました。胆振管内の苫小牧市で教員としてのスタートをし、三年間勤務させて頂きました。新採用時はわからないことや不安なことだらけの毎日でしたが、子どもたちや保護者の方々、そして温かく指導してくださった先輩の先生方との出合いに今ではとても感謝しています。多くの人に支えられ今の自分がいるとい

うことを強く感じています。長万部小学校に赴任し、早いもので八カ月が過ぎようとしています。環境の変化に戸惑ったりの難しさを痛感したりすることもあります。これからも人との出会いやつながりを大切にしながら、子どもたちのために一生懸命努力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

うことを強く感じています。長万部小学校に赴任し、早いもので八カ月が過ぎようとしています。環境の変化に戸惑ったりの難しさを痛感したりすることもあります。これからも人との出会いやつながりを大切にしながら、子どもたちのために一生懸命努力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



「背中を追いかけて」



長万部支会  
(長万部小学校)  
高瀬 東

四月より長万部町立長万部小学校に赴任しました。新たな土地での半年間はめまぐるしく過ぎ、とても早く感じていきます。

毎日の学習指導や生徒指導・行事に向けての活動などで悩み、先輩の先生方に助けて頂いた感謝の気持ちと、これからへの決意を新たにした半年間でした。

私は期限付教諭としての勤務が長く、渡島・檜山の学校でお世話になった先生方の名前を挙げればきりがありません。恥ずかしい話かもしれませんが、多くの学校に勤務してきたことで、多くの素晴らしい素敵な先輩の先生方に出会えたことが、今の自分の財産になっています。

これまで赴任してきた学校で教えて頂いたことを自分の物としていけるように、先輩の先生の背中を追いかけて日々研鑽を続けていきたいと思えます。

終身会員の声

ああ人生に涙あり



昭和三十四年卒 一類  
見上 忠 男

東野英治郎、西村晃、佐野浅夫、石坂浩一、里見浩太郎をご存知だろうか。一九六九年（昭和四十四年）スタートの人気長寿番組の一つで放送回数は既に千二百回を超えている水戸黄門の光圀役を演じた方々である。

光圀一行は毎回、全国各地の名産名物を紹介しながら旅を続けているが、必ず悪者と出会う。助さん・格さん・女忍者等の活躍と「この紋所が目に入らぬ

か！」の名せりふでことを収め、高笑いをして一件落着となる。

この国民的人気番組が視聴率の低迷により約四十年の歴史に幕を下ろすという。分りやすいストーリーに兵の殺陣、美女の入浴等見所はいっぱいあると思うのだが残念でならない。

杯を手にとり人生楽ありや苦もあるさ。涙の後には虹も出る。歩いてゆくんだしつかりと自分の道をふみしめて……と鼻歌交じりにテレビの前に座り画面を眺めくだらないことを考えることもある。観ていると一日に二百から四百キロメートル位移動することがある。自動車と同じくらいスピードだ。長旅なのに荷物はないなあ。どこへ行っても晴天、きれいな松林の小道をゆつたりの旅で羨ましい。等々。

先日、カラオケ好きの友とスナックに入った。友は「見上、水戸黄門、歌え」と言う。違うんだよ。「ああ人生に涙あり」と言うんだよ。

終身会員の皆様へ

「平成二十三年度 勇退者 激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎平成二十四年二月十一日(土) 午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ

◎会費 六千五百円

◎申し込み締め切り

一月十二日(木)

◎申し込み方法

同封の葉書にて

あとがき

ご寄稿下さいました新会員及び終身会員の皆様、誠にありがとうございました。今後も会員の皆様のご協力をよろしく願います。